



猪高の森自然観察だより 2025・5月号

開催日時：2025年5月25日（日）

天候：曇り時々晴 気温：最低 16.5℃、最高 23.4℃
(名古屋に於いて)

参加者：15名（内 NACS-J 会員 3名）

(左上の画像はセンダンの花。画像は猪高緑地以外で写したものを含んでいます)

テーマ：これって何の幼虫？

コース：森の集会所 → 畑の前 → 井堀の大クス → 井堀の棚田 → 大クス → 塚ノ杵池
堤体 → 森の集会所

花たちが一番咲き揃う時期が過ぎると、いろいろな虫たちが登場してきます。苦手な方々も見えると思いますが、見ることでできる種類から始めてみましょう。もちろん、植物も見ていきます。

○目に見えて元に戻るカラスノエンドウの黒い莢

これは、「カラスノエンドウの莢がはじける運動は物理現象で、植物の生き死にとは関係ない」という一文から思った実験です。簡単な実験ですので、身近なカラスノエンドウの黒い弾けた莢を使って再現してみてください。



弾けて種を飛ばした後の莢はねじくれています。



水をかけて4分後。ほぼ元に戻りました。



7分後、閉じた形にまで復活しました。

莢が捻じれる力で種を飛ばす距離は数メートルとのこと。かなり強力な捻じれ力とおもわれます。

○柳絮(りゅうじょ)が飛び始めています。



マルバヤナギの柳絮寸前の花序

柳絮とは、「ヤナギの綿毛のついた種子、またはその種子が飛ぶこと」とされています。

猪高の森のいくつかの場所で、見られるようになっていきます。1年に一度の雪が舞うように飛ぶイベントです。

残念ながら観察会の前日が雨だったために乾燥せず、種が飛ぶことはありませんでした。



アザミの花とハナアブ

○アザミの花が動く？

以前に紹介したヒイラギナンテンの雄しべが動く話は覚えていますか？(2025・3月号にて)

実はアザミの花も動きます。アザミの花は雄しべが合体した筒の中に雌しべが入っている形の筒状花で、虫が訪れるとその先から花粉の粒とともに雌しべがせり出していきます。左の画像で先が白っぽくなっているのが、せり出したあとの姿です。

下の URL の動画で、詳しく解説されていますのでお勧めです。ぜひご覧になってください。

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005100067_00000

○生物一斉調査の練習で「猪高緑地」が選ばれる！

今年の「生物一斉調査はカエル」となり、その練習観察の場として「猪高緑地」が選ばれました。それは森や林、棚田という多様な環境があり、多様な生き物たちが暮らしていける条件がそろっているために、カエルの種類も多くみられるからでした。一部を紹介します。



トノサマガエル
背中の1本線が特徴



ヌマガエル
一番よく見られる



ニホンアカガエル
オタマジャクシからの変態が
一番早く始まる



シュレーゲルアオガエル
出会えたらラッキー！
美しい声で鳴く



ニホンアマガエル
一番身近なカエル



ウシガエル (こもれば池にて)
何でも食べてしまう悪食漢

○マムシ(死がいですが)を観ました



棚田の水路でニホンマムシの死がいを見つけました。死因は不明です。

ニホンマムシは、名古屋市では絶滅危惧種Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)に指定されています。

カエルを好んで捕食するために、カエルの減少が絶滅の危険性を増大させている要因の一つと考えられています。

体長は大きくても60cm程度、確認した個体は

約 50 cm前後でしたので成体と判断しました。マムシによくみられる銭形模様の斑紋が観察できました。(個体差が大きく、斑紋のない個体も文献で見たことがあります。)

猪高緑地は前述のようにカエルの数が多いので、マムシの目撃例も多数あります。これからの時期は不用意に草むらなどに入らず、万が一噛まれたときは、慌てずに病院に行ってください。1匹の毒の量では、健康な成人ではまず死に至ることはありません。(年間 1,000 人以上が噛まれ、死亡例は 10 人程度、ほとんどが 70 歳以上の高齢者とされています。)

今回が一番のハプニングでした。

○マテバシイとクリの花が咲き始めました。



マテバシイの昨年受粉した実とつぼみ

5月の下旬から6月の初めにかけてマテバシイとクリの花が咲きます。

マテバシイのドングリは2年かけて大きくなります。今、成っているドングリは去年に受粉した実です。実は渋みがないので生で食べることができ、大きいサイズなので食用に適しています。



クリの垂れ下がった雄花



穂の根元にときどき雌花がある

クリの雌花をはじめて観ました。全部の穂の根元にあるわけではなく、ところどころに確認できました。これが、秋にはイガイガのクリの実になるかと思う、と不思議な気がします。

○見られたいろいろな花や動物たち



ナナフシモドキの幼虫 擬態の名手



前日の雨に誘われて カタツムリ



オジロアシナガゾウムシ 別名パンダムシ



ヒモワタカイガラムシ (ヤナギの枝にて)



ルリタテハの幼虫 (サルトリイバラにて)



モリチャバネゴキブリの幼虫



アメリカフウロの弾けた莢



クロガネモチの花 シンプルな美しさ



イチョウウキゴケ 浮遊性のコケはこれ1種



スズメノエンドウの成熟した莢 これも黒

次回観察会は6月22日(日)森の集会所集合 9:30~です。

(雷注意報発令時または熱中症の発生する危険のある場合は中止)

名東自然倶楽部のHPでは毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

<https://sizen.ciao.jp/>からは是非ご覧になってください。

(右上の自然観察グループをクリックしてください。)